

公表値達成に全力を尽くそう

社長 CEO
沖津 雅浩



1. 第3四半期決算

2月10日に、2025年度第3四半期決算を発表しました。第3四半期の業績は、アセットライト化の影響や需要の低迷、競争環境の激化などにより、前年同期比で減収減益となりましたが、ブランド事業を中心に着実に利益を積み上げた結果、前回決算で上方修正した公表値「営業利益450億円」に対し、第1四半期から第3四半期までの累計で409億円まで進捗しました。

さらに、自己資本比率が当面の目標である「20%」に対し、17.8%まで改善が進むなど、財務基盤の強化も想定を上回るペースで進んでいます。この間の皆さんの努力に感謝します。

一方で、足元の事業環境は、競争環境の激化に加え、パソコン特需の減速やメモリー価格の急騰によるコストアップ、不安定な為替相場など、日増しに厳しさを増しており、公表値の達成まであと一步のところまで来てはいるものの、全く予断を許さない状況にあります。

3月最終日まで残された期間、引き続き全社一丸となって売上拡大による利益の積み上げに全力を尽くすとともに、これまで以上に高いコスト意識を持って日々の業務に取り組んでいきましょう。そして、全員の力で何としても公表値をやり遂げましょう。

2. ディ스플레이デバイス事業の構造改革

今回の決算発表では、ディスプレイデバイス事業の構造改革の一環として、「亀山第2工場の生産停止」と「SDPの事業終息」について、併せて公表しました。

亀山第2工場については、昨年5月以降、鴻海への譲渡について協議を重ねてきましたが、残念ながら条件面で合意に至らず、検討を終了することとなりました。これを受け、同工場は今後の黒字化の目処が立たないことから、これ以上の事業継続は困難であると判断し、既存顧客の需要に対応するための先行生産および在庫確保を行ったうえで、2026年8月を目途に生産を停止することを決定しました。

また、SDPについても、2024年8月の工場停止以降、インド大手企業の液晶工場への技術移転を検討してきましたが、先方との合意に至らず、当検討を終了し、事業を終息する決断をしました。

尚、これら両事業に関連する業務に従事されている方々などについては、誠に断腸の思いではありますが、社外転進支援プログラムの活用なども通じて、会社として一人ひとりのキャリア形成を誠意をもって丁寧に支援していく考えです。

また、今回の亀山第2工場の譲渡不成立を受け、一部には鴻海との関係悪化を懸念する声もありますが、当社と鴻海との関係に影響は一切ありません。今後も、EVやAIサーバーなどの新規事業領域を中心に連携を深め、早期の事業化を目指していきます。

3. 最後に

決算発表でも言及したとおり、一昨年来取り組んできた一連のデバイス事業の構造改革は、今回で区切りがつかしました。ディスプレイデバイス事業においては、今後、亀山第1工場および白山工場を主力に、高付加価値製品の開発と販売拡大に取り組むことで黒字化を目指します。そして、ブランド事業においては、いよいよ「成長」へと本格的に歩みを進めていきます。

足元の事業環境は非常に厳しい状況にありますが、全社一丸となって難局に対応するとともに、新規事業や成長投資に積極果敢に挑戦し、将来の飛躍につながる布石を一つひとつ着実に打っていきましょう。そして、中期経営計画で掲げた2027年度目標「営業利益800億円」の達成に向け、力強く前進していきましょう。

最後になりましたが、今年度も残すところ1カ月強です。冒頭でお話ししたとおり、公表値の達成に向け、最終日まで全力で駆け抜けましょう。そして、2年連続で公表値をやり遂げ、再成長へと弾みをつけましょう！